

発行：河内長野市医師会地域連携室（まちなのれんけい室）

平成30（2018）年7月・第33号

☆第1号 **おれんじ通信**（別紙）～不定期発行

地域における認知症初期集中支援チーム（おれんじチーム）はじめ認知症施策の発展のために、新しく情報提供や情報共有の場として、本通信を刊行した。

▲ビッグイベントの予告▲

・「いきいきフェスタ」：9月30日（日）午前10時～ 於・河内長野市立市民交流センター（キックス）

フェスタ内で、「プチれんけいカフェ」を同じ内容で2度（午前の部・午後の部）開催！！

・認知症に関する医療・介護連携のための「多職種連携研修会」：来年1月19日（土）午後2時～

講師：辻 正純先生（東淀川区医師会副会長）

於・ノバティホール（ノバティながの南館3階）

☆地域における“顔の見える”専門職の多職種連携の推進のために！！

(1) 「れんけいカフェ」は、第12回を6月27日（水）に開催。「ブルーカード・ニュース」（第1号）や「第7期河内長野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」（概要版）を配布するとともに、おれんじチームの活動アナウンス、「終活」や救急医療等についてのディスカッションがあった。次回は、8月22日（水）の予定（偶数月の第4水曜日）。会議は午後2時～で、参加自由・申込不要。

(2) 編集会議の「プチれんけいカフェ」は6月27日（水）に終了し、次回は7月18日（水）午後2時の予定。第5回は、「病院地域医療連携室との懇談 ～ケアマネジャー編」とし、7月18日（水）午後3時に開催。第6回は、「在宅療養における急変時の対応について」とし、9月30日（日）の「いきいきフェスタ」内で2度開催（午前10時30分・午後1時30分。同内容）。第5・6回に参加希望の場合、必要事項（氏名・事業所名・資格・TEL・FAX）を書いて、地域連携室迄FAXにて要申込。

(3) 河内長野市地域ケア会議「多職種連携マガジン」（現在6号迄）、多職種連携推進のためのマナー集「河内長野市れんけいエチケット集」、サービス担当者会議の一般的な指針である「河内長野市サービス担当者会議ガイドライン」を各々発行中。希望の場合は地域連携室迄連絡を！

(4) 多職種間のFAX連絡票である「かわちながの連携シート」・「かわちながの連携シート＜サービス担当者会議用＞」は、河内長野市医師会ホームページからワード版がダウンロード可能。

なお、FAXで連携シートが来た際は、ぜひ返信をお願いしたい。

◇河内長野市との懇談：5月9日（水）・15日（火）・30日（水）、6月13日（水）・20日（水）・26日（火）に保健福祉部担当者と諸施策についての意見交換等を行った。

◇河内長野市地域ケア会議いきいきフェスタ検討委員会：6月13日（水）開催（於・河内長野市医師会地域連携室）各団体からフェスタの準備等の進捗状況報告があり、いよいよ準備は佳境に入ってきた。

◇河内長野市訪問看護ステーション連絡会：6月14日（木）開催（於・河内長野市医師会地域連携室）「地域連携推進ハンドブック」（仮称）の作成企図の説明や「れんけいカフェ」等の案内があった。

◇河内長野市訪問看護ステーション交流会：6月20日（水）開催（於・河内長野市医師会地域連携室）多職種連携、認知症施策、終活・ACPに関する最新の中央情勢等の講演、質疑応答、「れんけい

カフェ」等のアナウンスがあった。資料として、厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」や京都市「終活」等が配布された。

☆河内長野市内訪問看護ステーション：全市で10ステーションに拡大！！

ステーション（ST）名	TEL	FAX
青山第二病院訪問看護ST	64-8181	64-1291
かなえるリハビリ訪問看護STサテライト南	63-3355	63-3377
河内長野市医師会訪問看護ST	56-1100	56-2200
ケア南海(株)訪問看護ST	52-0211	52-0232
さざんかりハビリ訪問看護ST	81-3335	81-3336
寿里苑訪問看護ST	50-2941	50-2940
訪問看護ST河内長野	56-8600	56-8602
訪問看護STデューン河内長野・三日市	55-3061	55-3062
訪問看護STなのはな	55-3507	55-3508
青空の杜訪問看護ST	56-5683	56-4683

◇河内長野市民大学くろまる塾本部講座：6月15日(金)開催（於・河内長野市立市民交流センター）

「乳腺専門医に何でも聞こう！」と題して、大阪南医療センター乳腺外科医長の田中覚先生から、乳腺の病気の診断から治療に至るまでの基本的な内容の講演があった。

□南河内在宅医療を考える会：5月19日(土)開催（於・藤井寺市立市民総合会館）

「多職種チームで連携する在宅医療～自分らしく生きるを支える～」をテーマに、愛媛県松山市の永井康徳先生が講演。本人の最善を最優先する意思決定支援、食支援は究極の多職種連携など珠玉のコメントが種々披露され、歯科医療との連携の重要性も強調された。

□大阪府在宅医療・介護連携推進事業研修会：6月21日(木)開催（於・松原市文化会館）

入退院支援の機能強化が求められる背景等に関する講演、「大阪府入退院支援の手引き～職種による支援の役割について～」(3月発行)の作成企図紹介があった。手引き希望の場合は地域連携室迄連絡を！

□南河内糖尿病を見守るNurseの会：6月23日(土)開催（於・大阪南医療センター研修室）

地域連携を目指して、糖尿病治療における皮膚の病変に関する講演があり、また幸原晴彦先生からは、「糖尿病連携手帳」が紹介された。

☆【Topics】

○日本医師会「終末期医療アドバンス・ケア・プランニング(ACP)から考える」：ACPとは、将来の医療やケアについて、本人・家族、近しい人、医療・ケアチームが繰り返し話し合いを行い、本人の意思決定を支援するもの。パンフレット希望の場合は地域連携室迄連絡を！

☆河内長野市医師会地域連携室 <TEL: 54-1700 FAX: 54-1567>

(まちのれんけい室)

<メールアドレス: chiikirenkei4@kawachinagano-ishikai.com>

平成 30 (2018) 年 6 月 30 日

☆認知症初期集中支援推進事業

国は、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築を目指しています。河内長野市では、平成 28 年 10 月 1 日から、名称を「**おれんじチーム**」とし、活動を続けています(下記)。また、今年度より、本会地域連携室もその一翼を担うことになりました。

- 概 要
- ◇配置：チーム員医師(認知症サポート医)・チーム員(医療系専門職・介護系専門職)
 - ◇活動：対象者の把握、情報収集及び観察・評価、初回訪問時の支援、初期集中支援の実施、情報共有、モニタリング、チーム員会議の開催など
 - ◇連携：医療機関はじめ専門職や認知症地域支援推進員など

◎患者さんはじめ周りで気になる方がおられたり、認知症支援のことで相談事等がありましたら、本会地域連携室(0721-54-1700)迄ご連絡下さい。

☆認知症の窓 (色々な取組み)

<p><u>河内長野市おれんじチーム「チーム員会議」</u> ○6月18日(月)に開催。活動状況報告の他、要否の検討(2件)を行いました。</p> <p><u>「個別チーム員会議」</u> ○6月1日(金)西部で行いました。</p>	<p><u>チーム員活動</u> ○6月4日(月)中部<自宅訪問>、11日(月)東部<自宅訪問>・中部<情報提供>、12日(火)東部<情報提供>、19日(火)東部<自宅訪問>、22日(金)中部<自宅訪問>、25日(月)東部<自宅訪問>・中部<情報提供>、28日(木)中部<自宅訪問>を行いました。</p>
<p><u>中央の動き</u> ○日本医師会と厚生労働省の動きは、下記です。 ☆このたび、本通信を刊行しました。宜しくお願ひします。</p>	<p><u>医師会の活動</u> ○「認知症に関する医療介護連携フローチャート PART II」(ラミネート版)を発行しました。 また、「同 PART II」(紙版)を関係団体等に配布する予定です。</p>

☆中央の動き

※紙ベースの資料を、ご希望の場合は地域連携室迄連絡して下さい。

○**日本医師会**：「超高齢社会におけるかかりつけ医のための適正処方の手引き 2 認知症」(A4判12頁)が平成30年4月に刊行されました。1 認知症の現状と治療総論、2 認知症の中核症状に対する薬物療法、3 認知症の行動・心理症状(BPSD)に対する薬物療法、4 高齢者の認知症患者への薬剤使用の注意点、5 高齢の患者に認知機能障害を生じやすい薬物の5パートに分かれて、コンパクトに書かれています。

ちなみに、手引き1は「安全な薬物療法」(昨年9月刊行)となっています。

○**厚生労働省**：「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」(A4判24頁)が平成30年6月に提示されました。認知症があっても本人が日常生活や医療介護に関する意思決定ができるよう、家族や専門職・行政職向けに作られたもので、基本原則や具体的な事例に基づいた支援方法等が書かれています。